

2017 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録 6 限目》

《講座のメインテーマ》

防災の最新知見と

地域防災実践事例を学ぶ

記録： 講座協力委員 紅林敏行

◆開催月日： 2017 年 11 月 16 日(木) 13:30~17:00

◆開催場所: KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆ 実践的自主防災事例報告と参加者全員でテーマ別討議

・前半:『新百合ヶ丘自治会自主防災組織活動概要』

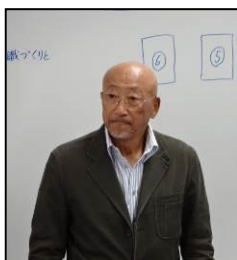
講師:樋口 誠 氏 (川崎市麻生区新百合ヶ丘自治会自主防災組織本部長)

・後半:『受講者グループワーク』 ~6 グループに分かれて討議~

「防災意識・教育」、「共助」、「災害弱者対応」等についてグループ討議



講義の様子



講師:樋口誠氏

《災害時に実行性のある組織》 平常時と災害時のリダを分ける！

- スーパーと 10 坪ほどの商店、医院以外は戸建て住宅。避難所/広域避難場所に隣接。世帯数約 940 世帯、自治会加入率ほぼ 100%、17 ブロック 56 班(班長(任期 3 ヶ月))、役員は各ブロック選出の 17 名(任期 1 年、再選可)。
- 「圧死から生き延びる対策」「火災から逃れる対策」「孤島対策」に取り組む。
- 防災活動を継続的に担当出来る『自主防災組織』に再編成。
本部長、副本部長(自治会長)、防災キャプテン、避難所キャプテンなどの役割を明確化。
不在時のバックアップ体制(交代するメンバーのグループ『凄年の会』)等で実行性担保。
- 災害時の役割に応じて必要な知識・技術を習得
一般住民向け(炊き出し訓練等)/防災応援団向け(防火水槽利用の放水訓練等)/



進行:山田美智子さん

要援護者等の支援者向け(AED 訓練等)の階層別防災訓練を毎年実施。
階層別防災訓練の積み重ねで、会員の防災への気持ちを繋げていく。

《お互いの顔の見えるまちづくり！》

- 「日頃からの近所付き合い」を基本に防災活動を展開。
- 普段から交流が多い道路を挟んだ家々の班編成に変更
- 要援護者の家の「向こう三軒両隣」の方々から支援者を選出。
- 地域のイベントが大事。餅つき大会、夏祭り等のイベントを通じて防災に携わる人(親世代(30~50 代))へ積極的な声かけを実施。
- 地域高齢者見守り電話、生活支援の面では外部の社団法人を活用。

第 6 回アイスブレイク 白山地区連合自治会 《地域防災力の向上への取組》

理念:「全員参加による安全・安心なまちづくり」
防犯、防災、福祉、子供の健全育成、環境の目標を明確にし、毎月定例の委員会地域課題の解決に取り組む。
住民への浸透度が課題。キープアップせずに続けていく。



山口章さん

『グループ討議・発表』 テーマ: 防災意識・教育/自主防災組織・活動・訓練・火災対応/共助/災害弱者対応/情報と安否確認/拠点運営



進行:田中栄治さん



《グループ発表から抜粋》

戸建て住宅/マンション、世帯数、自治会加入率等で地域差異があり、防災活動も様々な課題がある。自治会として要援護者把握(Ex.防災ささえ合いカード)が必須だが、名簿づくり等でも地域差がある。自主防災組織(絵に描いた餅)/防災訓練(実践的でない防災訓練)が形骸化している地域も。会社勤めの方々が、地域の小・中学生/高校生が参加しやすい防災訓練にすべく行政への働き掛けも必要。共助の基本となる地域の信頼関係を築くべく自治会のイベント、懇親会、サークル活動等が大事。「向こう三軒両隣」、あきらめずに挨拶も続けていく。まずは自助(共助に参加できない)が基本。高齢者の自助には不安。避難所運営での災害弱者への配慮、特別避難所との連携(含むケアラウンジ)が課題。地域住民以外の方々への対応、在宅避難の方々への対応、トイレ/風呂/キッチン等の備蓄品の不足対応、収容可能人数を超える避難者への対応等の課題は沢山。インターネット/電話が使えない時でも掲示板は有効な情報ツール。トランシーブを活用している自治会もある。安否確認での「状況表示板」の利用も有効。



~講義全体の講評と
講座終了証書授与~
荻本孝久防災塾だるま塾長



《塾長から》

防災の問題に正解は無い。地域の人達で話し合って解決策を見出していく事が大事。今回の講座ではその様な地域の取組み事例の報告があった。また、今日のグループワークでも、様々な地域の人と話し合う事が出来たと勉強できた。「住んでいる人達で自分たちの街を守る」。事前に、住んでいる人達と話し合って、防災・減災に備えていって欲しい。